鹿角ゼロカーボンラジオ　Ｎｉｃｅ　Ａｃｔｉｏｎ！
第 11 回（12 月 24 日（火）放送分）の概要

今回は、森林の環境に関わる価値を見える化して、それを売買するという取り組み、特に J-クレジットというものについてお話することとします。

J-クレジット……？　初めて聞く言葉です。J はジャパン、クレジットは信用とか信頼とか？

確かになじみがないですよね。J は日本で作られた制度なのでジャパンの J かと思います。クレジットは、金融用語で「後で払うことを約束するもの」という意味で、今回の場合、森林が二酸化炭素を吸収するということの価値を先に売買し、その後実際に森林に吸収してもらうという流れになるので、クレジットと呼んでいるかと思います。

そして、まずは、環境に係る価値ということを説明しますね。
例えば、省エネ設備を導入した場合は、通常の設備を導入した場合に比べて、エネルギーの消費が少なくなり、地球環境に良いということとなります。この環境に良くなった度合いを測り、その量を環境に対する価値として価格をつけるといった取り組みがすでに行われています。
具体的には、節約される電力の量から、減少する二酸化炭素の排出量を求めて、その量を「環境価値」とするものです。

これを証書にして、売り買いが行われています。この証書というものにはいくつかの種類があるのですが、代表的なものが J-クレジットというものです。
J-クレジットは、日本が国として運用している制度で、日本に住む私たちにとって一番身近な制度といってよいかと思います。

環境を価値として数値で表し、それを証書として発行するってイメージでしょうか？

そのような感じですね。

環境価値の話を森林に当てはめると、森林を間伐や再造林などにより適切に管理すると、森林の木々は光合成を十分に行うこととなり、木の幹などが太く大きくなります。この大きくなった部分には大気中から取り込まれた炭素が入っており、大気中の二酸化炭素を減らすこととなります。ということで、森林を適切に管理することは、

環境価値を生むこととなるので、その量を求めてクレジットや証書にするということが行われています。そしてその証書は、環境保全に係る取り組みを進めていることを示したい企業が買うなど、市場や相対取引で売買されており、それによりクレジット発行者、つまり森林所有者が収入を得ています。

実際にお金が動いているんですね。となると、森林が生み出す環境価値の「見える化」と言えばわかりやすいかもしれませんね。

そうですね。
森林の適切な管理によりクレジットを作り、それを売って得た収入を、さらに間伐や再造林などの森林管理に使ってもらうと、森林の持続性確保という意味でも好循環となりますし、二酸化炭素の量を減らすという意味でも好循環となります。

ということで、いつもながらですが、鹿角市としても適切な形で、こうした取り組みが広がっていくとよいなと思っています。
第 2 回で紹介した「鹿角市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の7つの対策のひとつに「森林の適切な管理を進める」が挙げられているのも、こうした背景があるからですね。

温暖化対策をすることで、地元に収入がもたらされ、そのおかげでさらに森林の管理がしっかりできるというサイクルが生まれるんですね。
森林を例にすることで、「持続可能な社会」という言葉がより身近に感じられてきました。

確かに「持続可能な社会」に貢献しますね。

この取り組みは、地域の安全安心にも資するといえます。例えば、森林に手が入ることにより、クマなどの獣害対策になるとか、不法投棄を防ぐことになるとかです。

ただ例によって、課題や留意点もあります。

一つは、この取り組みが進むかは、クレジットの売買単価次第ということです。クレジットを作るにはそれなりのコストがかかり、そのコストを上回る価格で売れないと、だれもこの取り組みをやらないということとなります。
価格は、求める方が多くなると上がりますね。

今後は、環境問題に積極的に取り組んでいる企業などが、よりクレジットを求めるようになり、価格もより上がるという予測もありますが、どうなるか私たちも注目しているところです。

エネルギーの価値の売買がそれぞれの地域のメリットになればよいのですが、実際にどんな成果があったかを確認したり実感できたりするのはなかなか難しそうですね。

そうですね。色々トライしながらより良い活動ができてくればよいですね。